

和地・堀切・伊良湖の3小学校統合に向けて

統合準備委員会 H25.01.20 (月) 14:00～ 和地小学校



伊良湖岬

愛知県田原市立和地小学校



和地小学校の62名の子どもたち

学習意欲が高く、真剣に取り組む
礼儀正しく、明るく挨拶できる
全校が仲よく、協力して遊べる

はっきりとした声で積極的に発表
責任感が強く、清掃・係活動も
高学年がリーダーとして自覚



1年 千賀学級



4年 渥美学級



2年生 小木曾学級



5年生 柴田学級



3年生 荒木学級

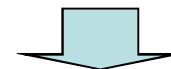


6年生 小久保学級

児童数の減少...5年後には45名に

学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	全校
男子	5	4	6	7	4	4	30
女子	5	3	2	10	7	5	32
学年	10	7	8	17	11	9	62

せまく限られた交友関係
たくましさに欠け、ひ弱な子も



縦割り班を通年で企画・運営
高学年にリーダー意識を育成

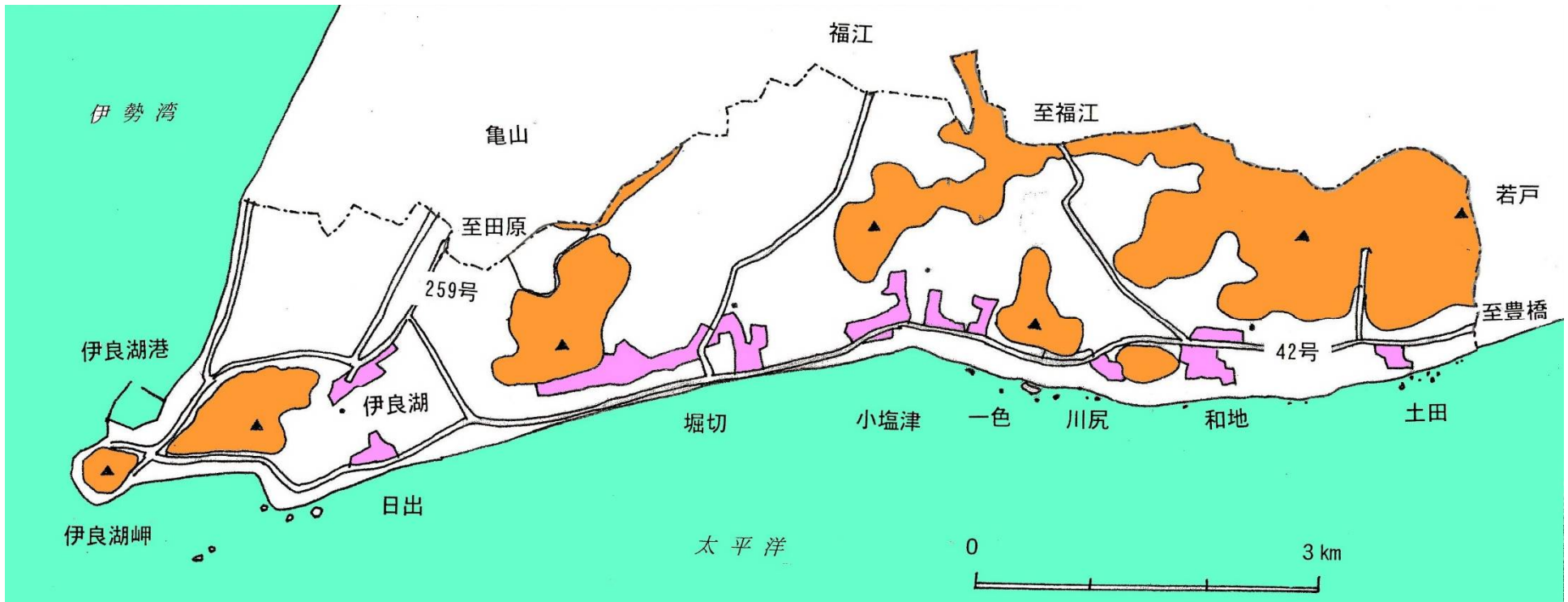


対外交流や部活動で鍛える

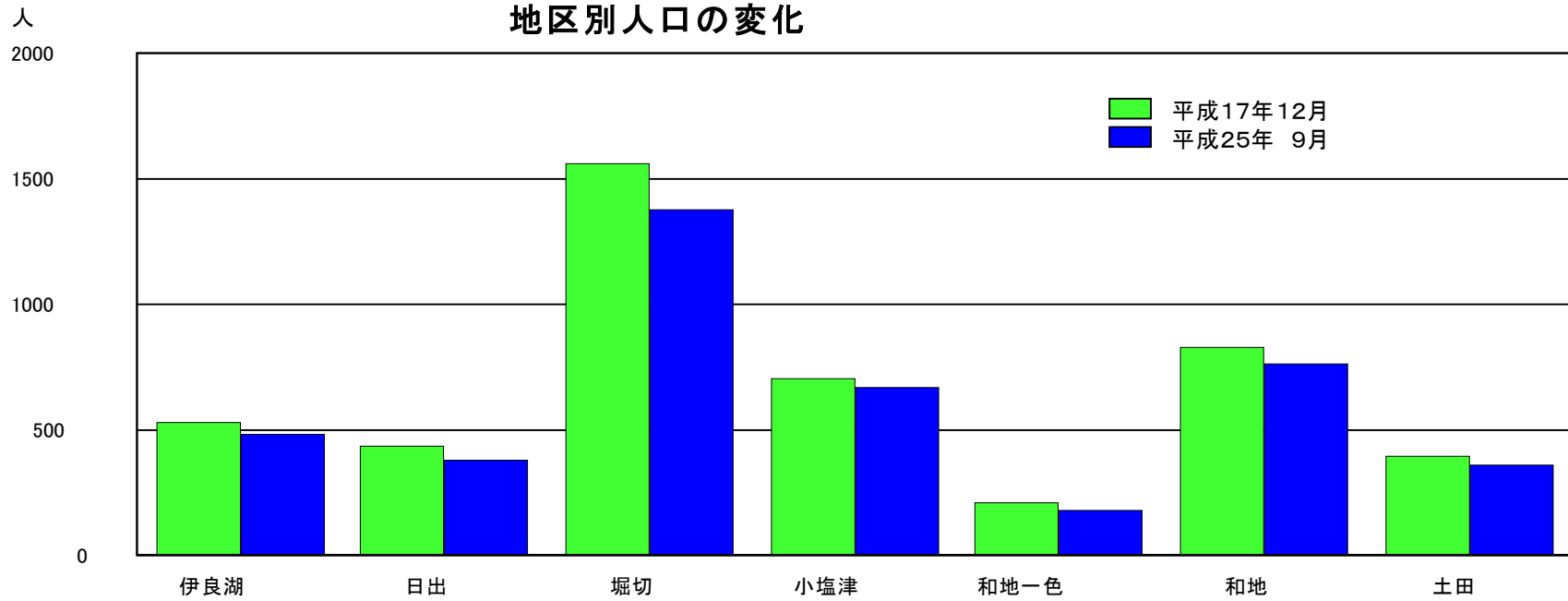


平成18年～
和地小学校
＋阿南町4小学校

平成24年～
和地・堀切・伊良湖
3小学校の5年生
＋阿南町4小学校
の5年生

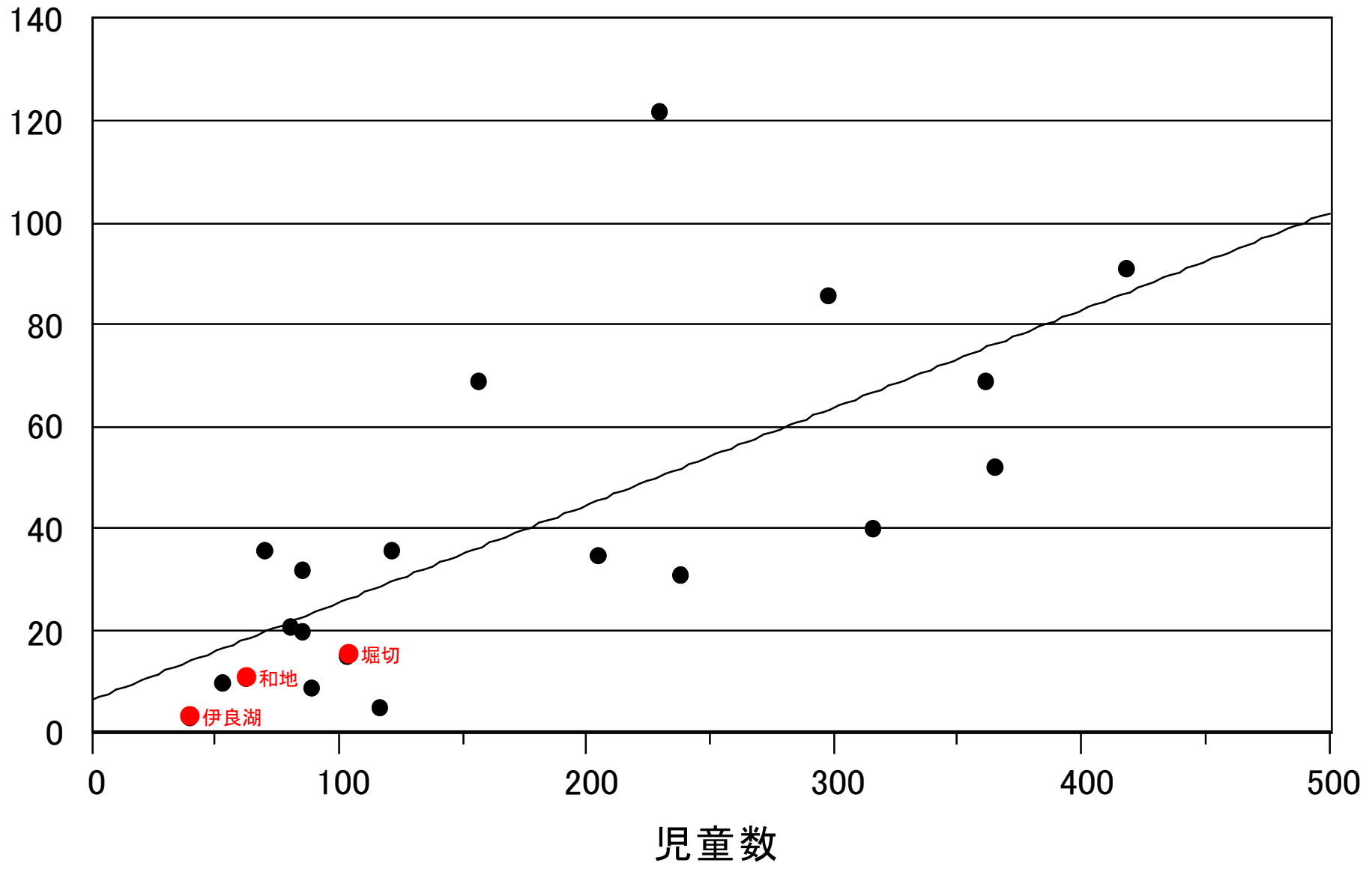


地区別人口の変化



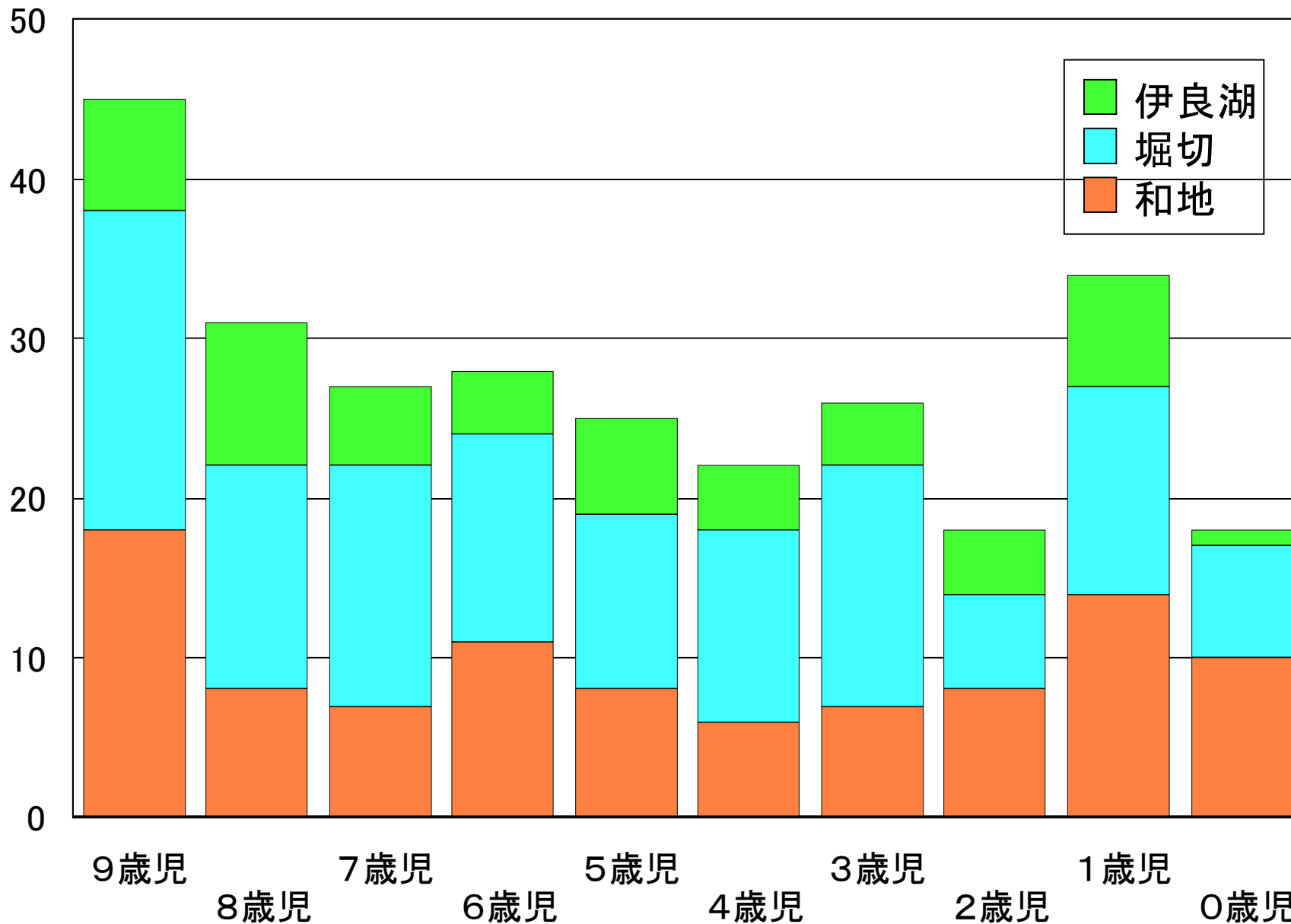
平成25年度 田原市小学校陸上競技大会成績と学校規模

得点



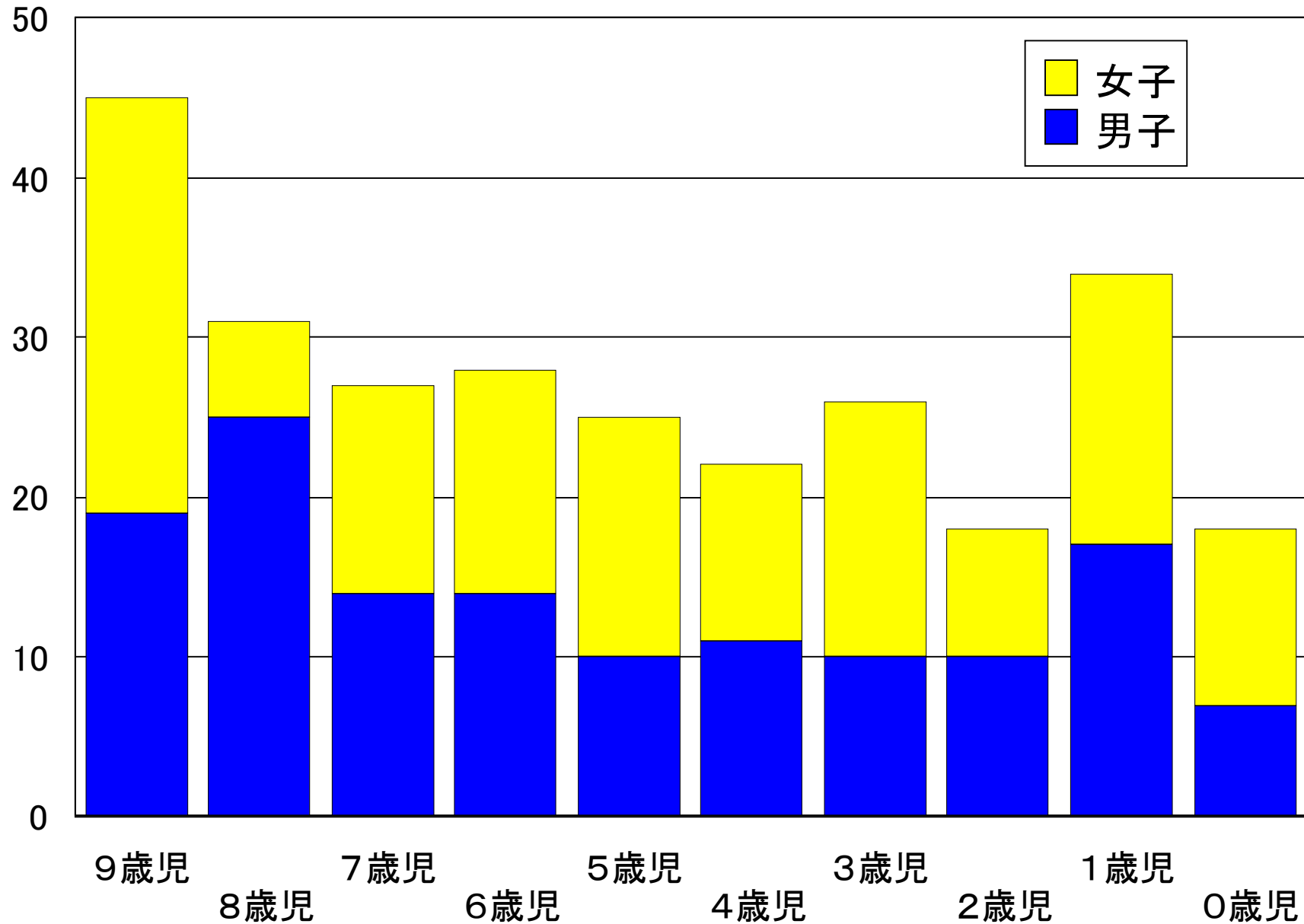
3校が統合した場合の児童数の推移

人



3校が統合した場合の児童数の推移

人



中日新聞

発行所 中日新聞社
名古屋市中区三の丸一丁目6番1号
〒460-8511 電話 052(201)8811

おかげさまで
創業100周年

のいり

愛知県一宮市本町3-7-4
☎0120-24-0948

読者にニュースとお得
中日新聞プラス
chuplus.jp

中日新聞プラス

検索

登録のお問い合わせは
☎0120-664411

CHUNICHI Web
www.chunichi.co.jp

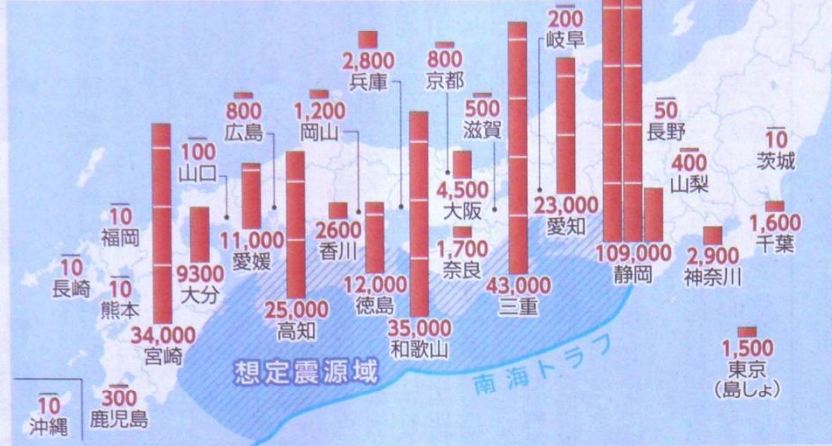
中日新聞購読申し込みは

南海トラフ地震 M9 新推計

駿河湾から四国沖に延びる海溝「南海トラフ」に沿って、東日本大震災と同じマグニチュード(M)9級の地震が発生した場合、三都府県で最大三十二万三千人が死亡するとの想定を、内閣府中央防災会議の有識者会議が公表した。津波の死者が七割。静岡県の方九千人が最多で、三重県はそれに次ぐ四万三千人。愛知県は二万三千人で建物倒壊の死者が一万五千人に上る。

想定死者 最大32万人

被害が最大となる場合の都府県別死者数
※冬の深夜、風速毎秒8m、避難が遅れたケース



内閣府公表 津波犠牲者が7割

中部地方が大きく被災するケースの最大死者数

都府県	建物倒壊	津波	急傾斜地崩壊	火災	合計	水門などの機能不全による増分
静岡県	3,000	3,000	40	1	6,000	5,300
愛知県	15,000	6,400	50	1,800	23,000	4,000
三重県	2,000	2,000	60	2,000	6,000	1,800
滋賀県	500	500	50	500	1,500	500
岐阜県	200	200	10	200	600	200
長野県	50	50	10	50	150	50
福井県	50	50	10	50	150	50
合計(全国)	2,000	23,000	300	10,000	25,300	23,000

豊橋市や田原市は、最大震度7
最大津波高 太平洋岸では22m
12分で、第一波の到着も
高台へ早く逃げるのがカギ

住民の七割以上は、津波避難を始める前に避難を始める必要がある。津波の到達時間は、太平洋岸では最大22mの高さの津波が、12分で第一波の到着も高台へ早く逃げるのがカギ。津波による浸水範囲は、最大千五百平方キロメートルに達する。津波に巻き込まれた場合は、死亡する可能性がある。津波による浸水範囲は、最大千五百平方キロメートルに達する。津波に巻き込まれた場合は、死亡する可能性がある。津波による浸水範囲は、最大千五百平方キロメートルに達する。津波に巻き込まれた場合は、死亡する可能性がある。

野田首相問責を可決

公明棄権 国会、事実上の閉会

参院は二十九日夜の「な、共産党、野田七党」を七党派や自民党の賛成側は国会同意人事案や針。国会は九月八日の「野田首相問責」を可決した。公明議員立法を除き今後の「会期末まで十日間、二を裏付ける公債発行特」を裏付ける公債発行特



参院本会議で自身の問責決議が可決され、議長を務める野田首相。29日午後、国会で(中嶋大樹)

地震だ！津波だ！すぐ避難！



堀切小学校では、全校児童107名と保護者が参加した津波避難訓練を年5回行っている。

地震発生 of 校内放送を聞いた子どもたちは、1.5 km先の渥美運動公園（標高27m）に向かって全力で走る。

15分以内の到着をめざして、週3回の持久走訓練で体力づくりも行っている。

高台の運動公園に向かって、全力で走る堀切小学校の子どもたち

江戸時代の堀切村を襲った大津波

宝永東海地震(1707) M8.4

表浜の津波の高さ 6~8m

堀切村

民屋30余軒が流出

2人が流死

老若ことごとく城山へ逃れた

安政東海地震(1854) M8.4

表浜の津波の高さ 6~8m

西堀切村

家数233軒中113軒が流出

死者8人 けが人60人

村中が常山に駆け上った

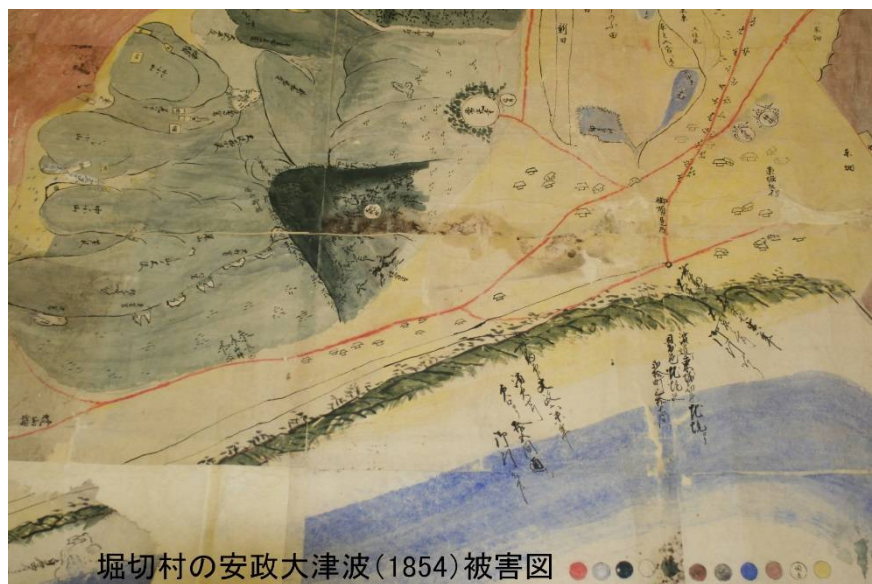
田地一円に土砂で埋まり、

地境が分からなくなった

東堀切村

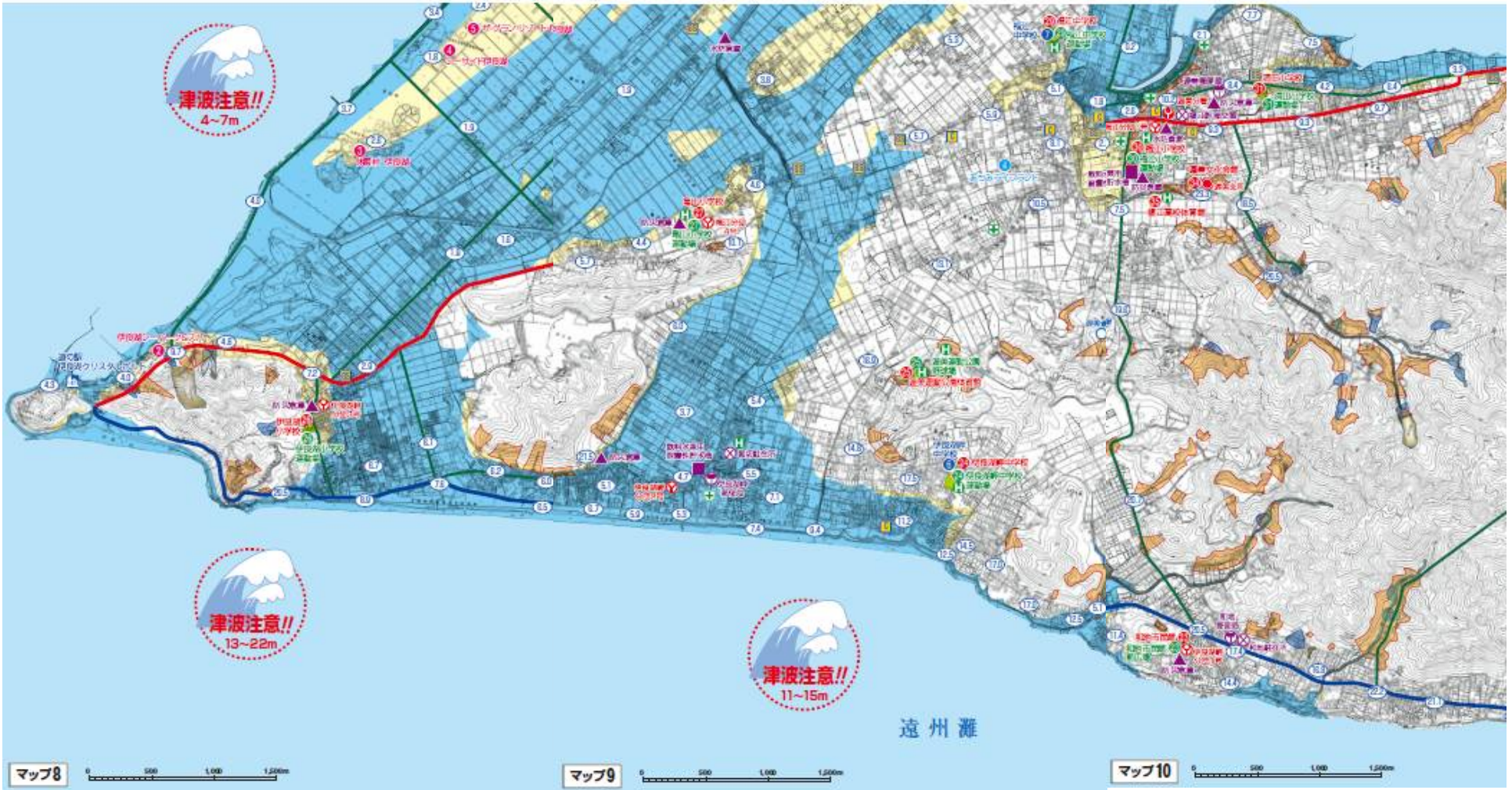
家数68軒中、4軒が流失

流失同様13軒



堀切村の安政大津波(1854)被害図

渥美郷土資料館蔵



津波注意!!
4~7m

津波注意!!
13~22m

津波注意!!
11~15m

遠州灘

マップ8



マップ9



マップ10





仙台空港を襲う高さ10mの大津波

東日本大震災(2011.3.11)

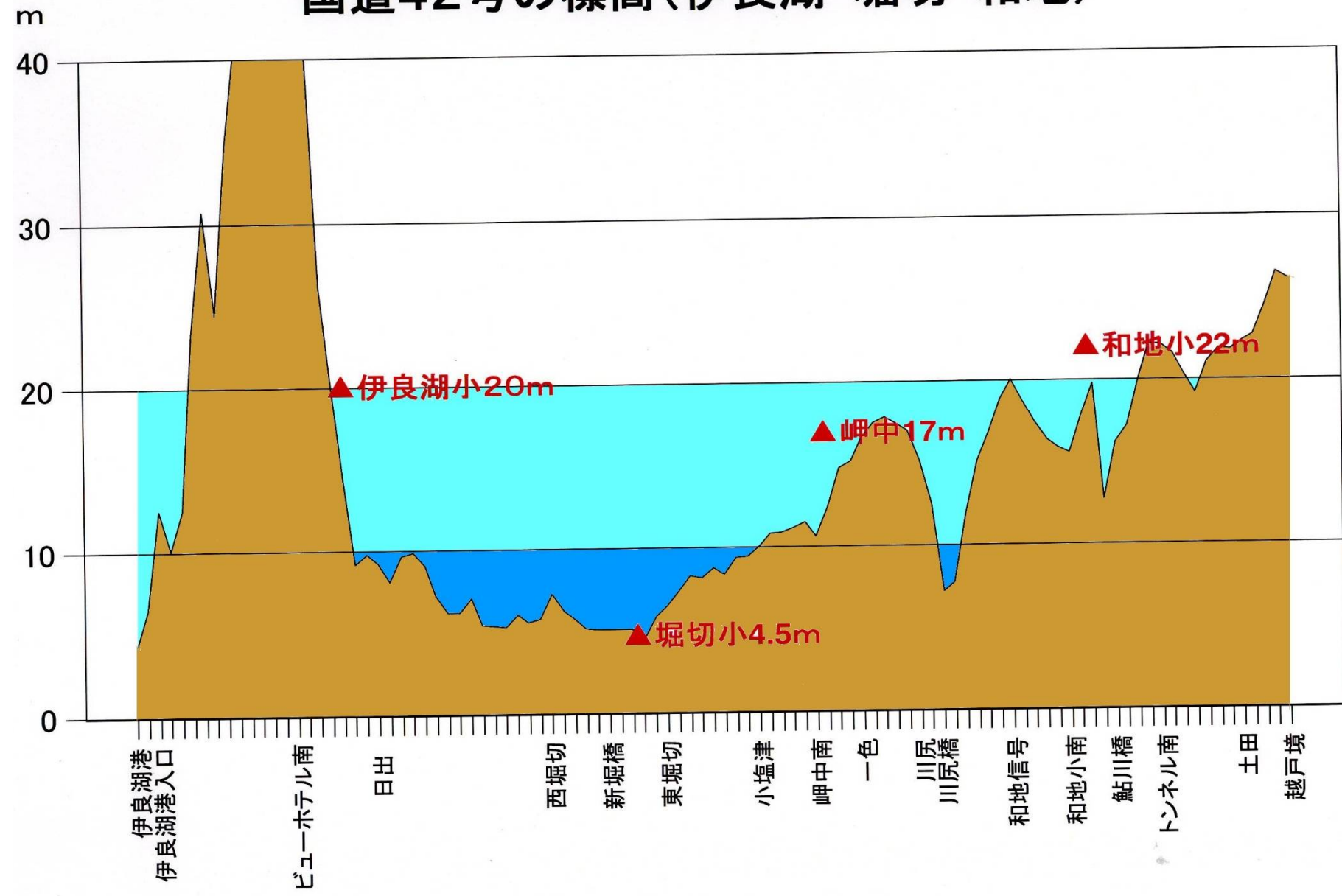
堀切地区

渥美運動公園

堀切小 4.5m

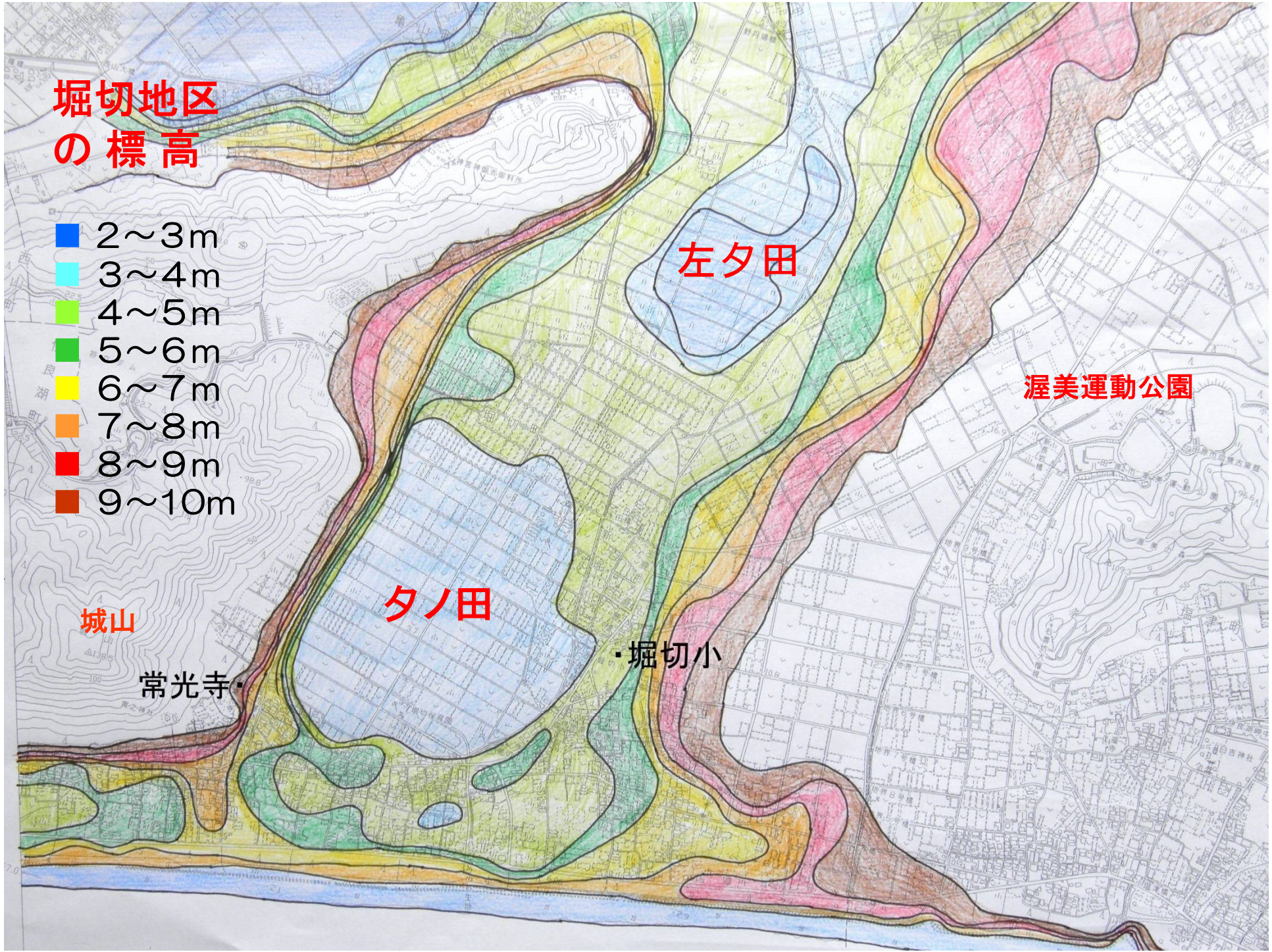


国道42号の標高(伊良湖-堀切-和地)

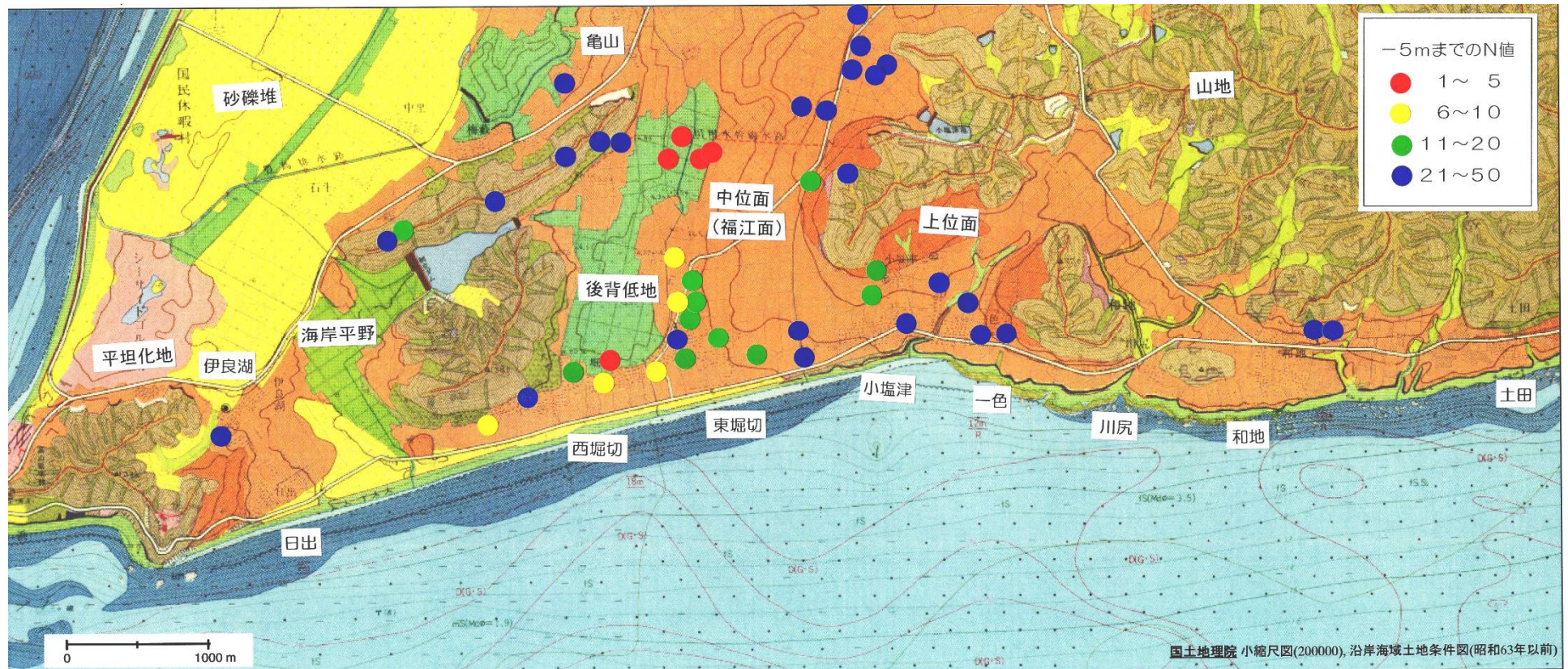


堀切地区 の標高

- 2~3m
- 3~4m
- 4~5m
- 5~6m
- 6~7m
- 7~8m
- 8~9m
- 9~10m



伊良湖岬地区の地形面図と地盤の強弱(−5mまでのN値の平均)



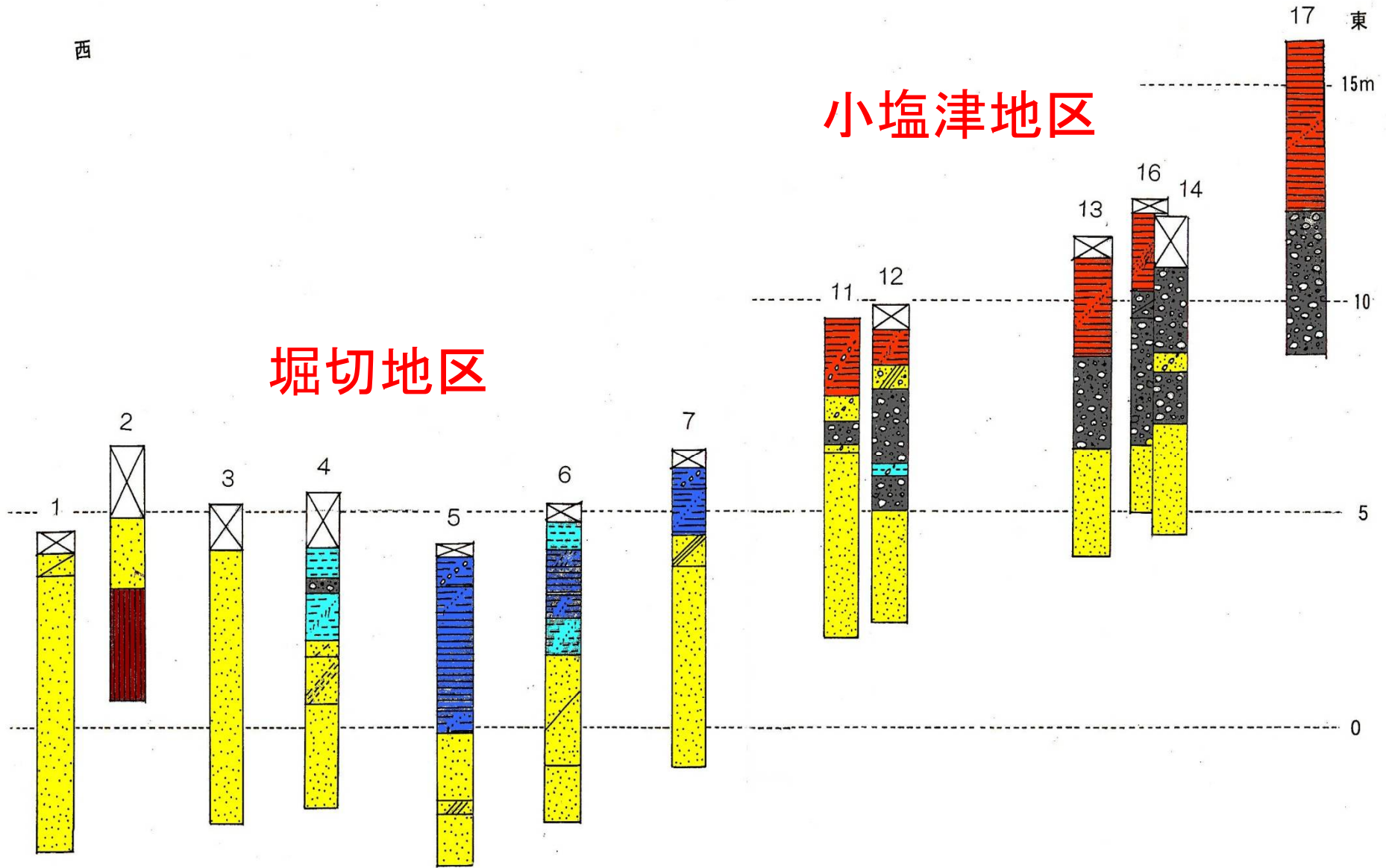
- 山地** 主にチャートや粘板岩からでき、N値は50以上で非常に固い。
- 中位面** 12万～3万年ほど前に堆積した標高6～20mの洪積台地。
原面は厚さ5m以上の礫層からなり、N値は25～40で安定した地盤である。
- 砂礫堆** 6000年ほど前の海進でできた海浜礫からなり、厚さは20m以上にも達する。
新しい地層であるが、固い礫層のためN値は25～30で安定した地盤となっている。
- 後背低地** 自然堤防や洪積台地に挟まれた低湿な軟弱地盤。堀切地区では厚さ10m以上の泥層が堆積し、N値は5以下で、標高2～3m程度の極めて軟弱な低湿地である。

西

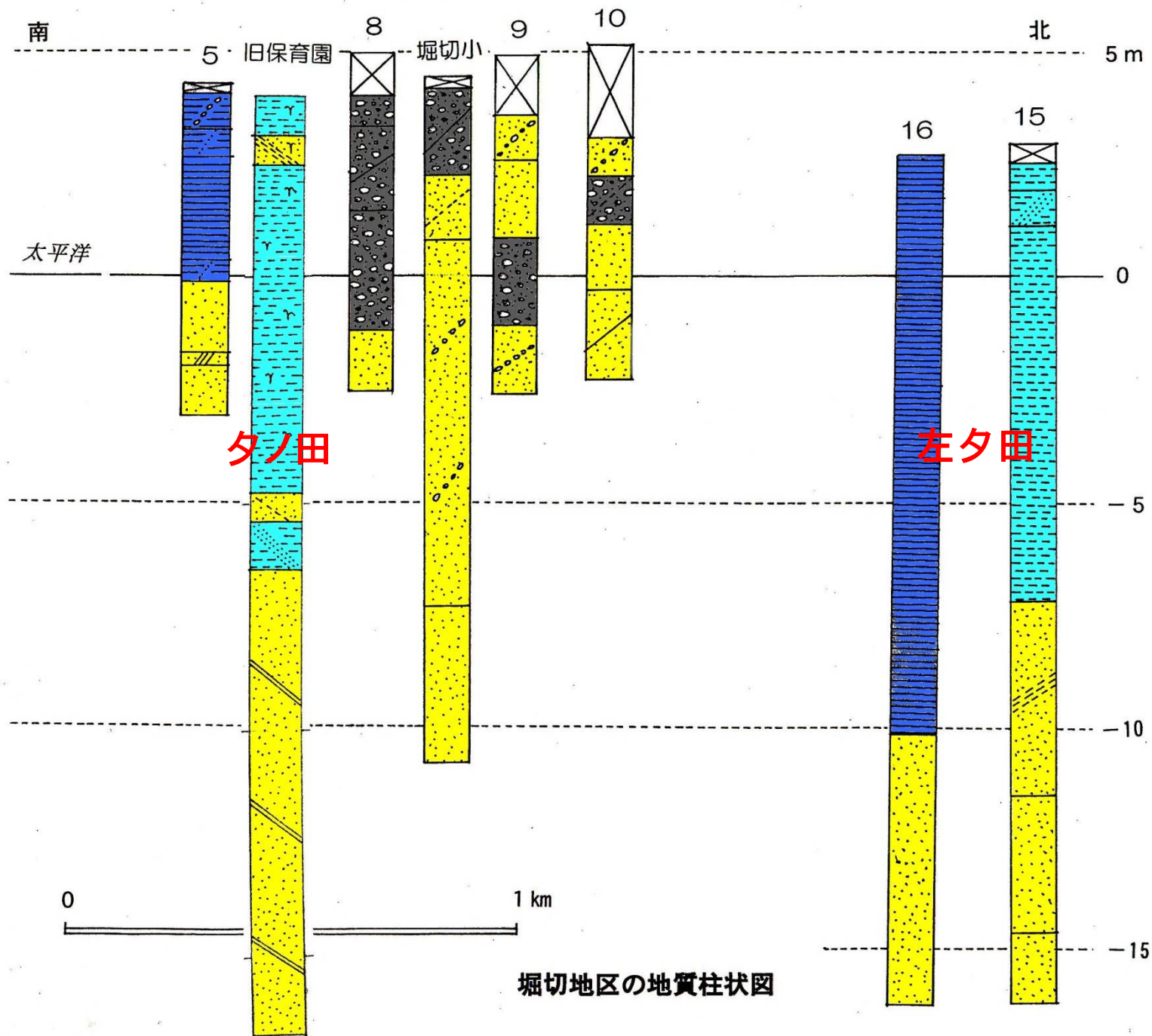
東

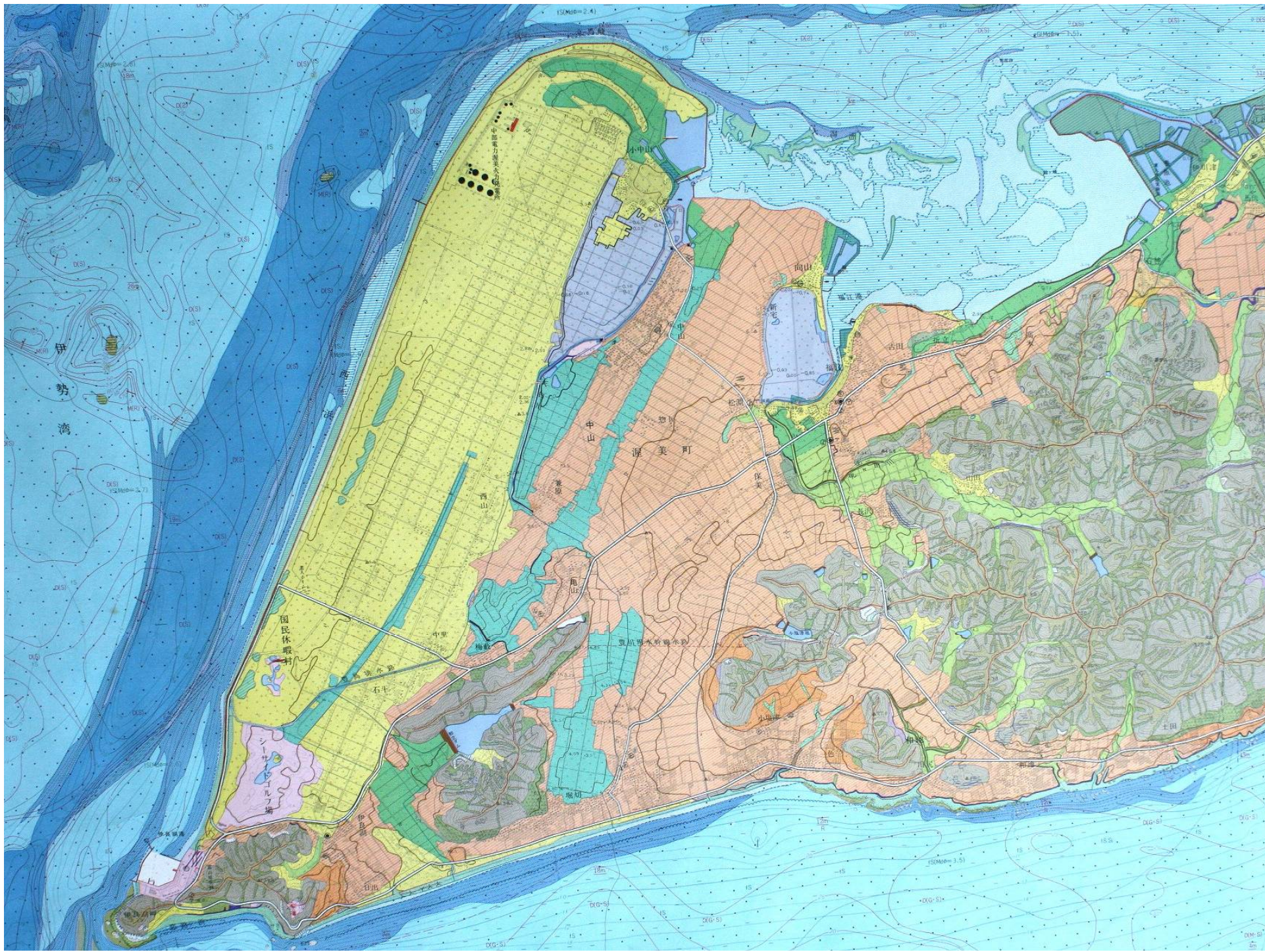
小塩津地区

堀切地区



堀切地区の地質柱状図



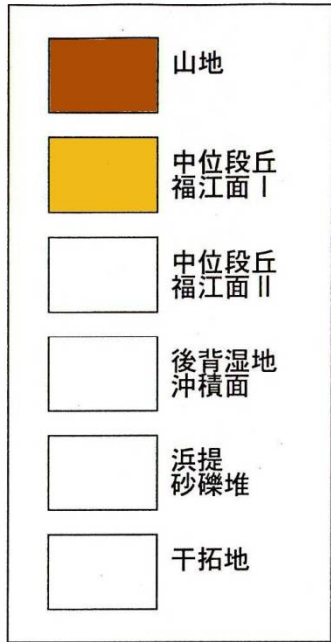




- 山地
- 中位段丘福江面Ⅰ
- 中位段丘福江面Ⅱ
- 後背湿地沖積面
- 浜提砂礫堆
- 干拓地

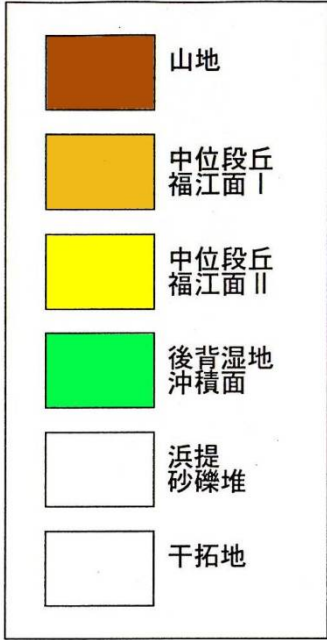
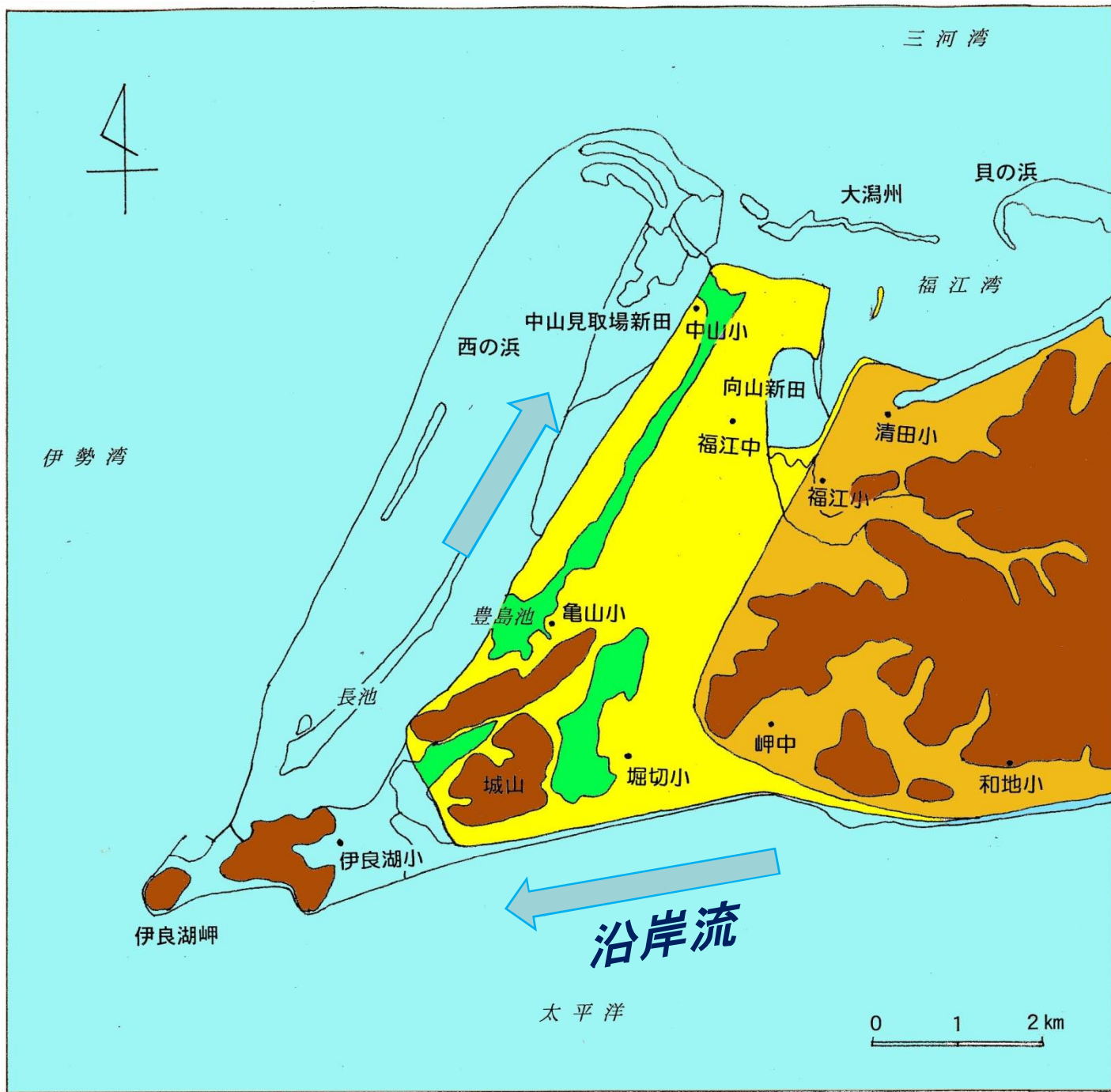
35万年前
の海進期

渥美半島先端部の地形発達史



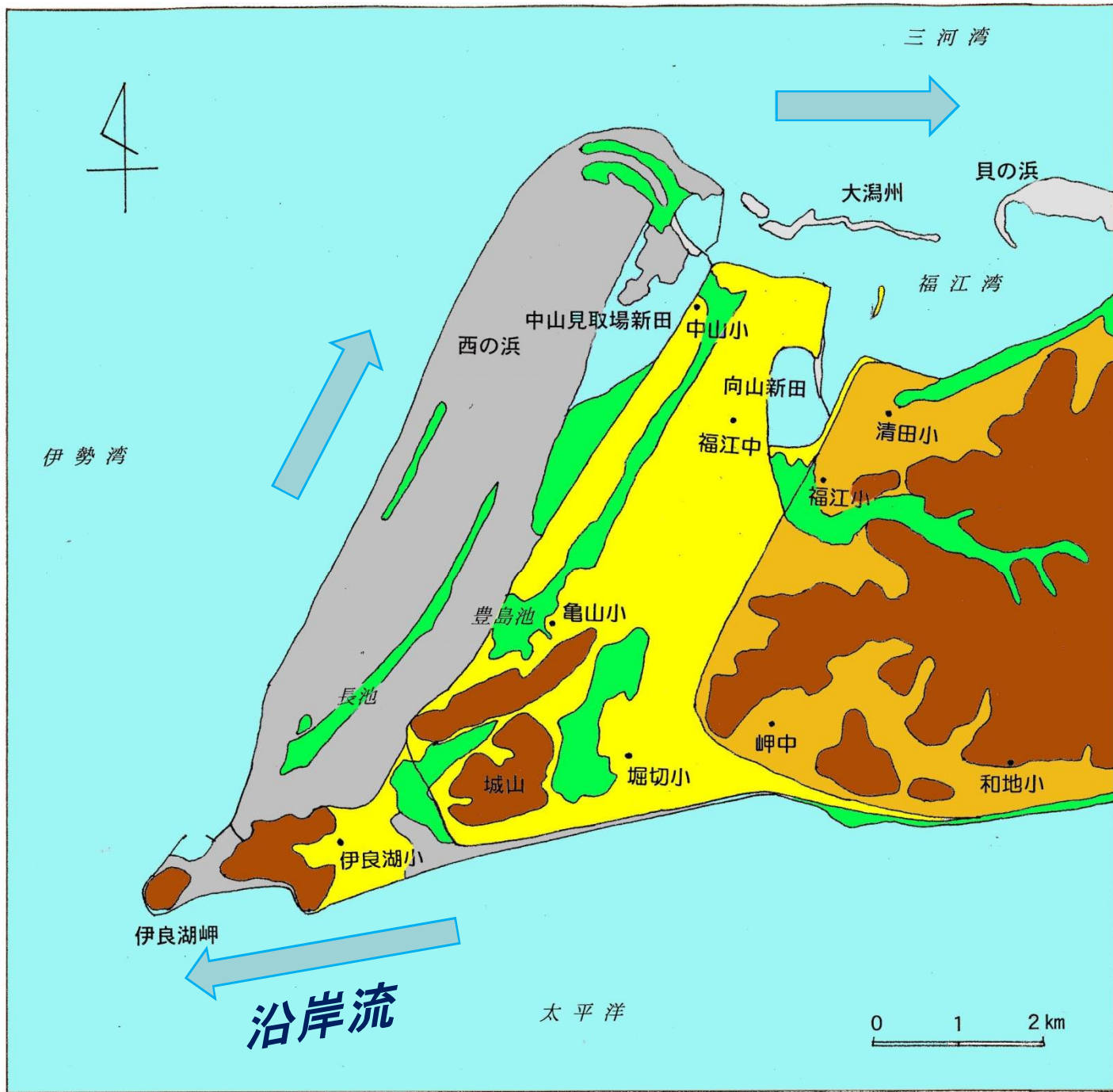
12万年前
の海進期に
福江面が形成

渥美半島先端部の地形発達史



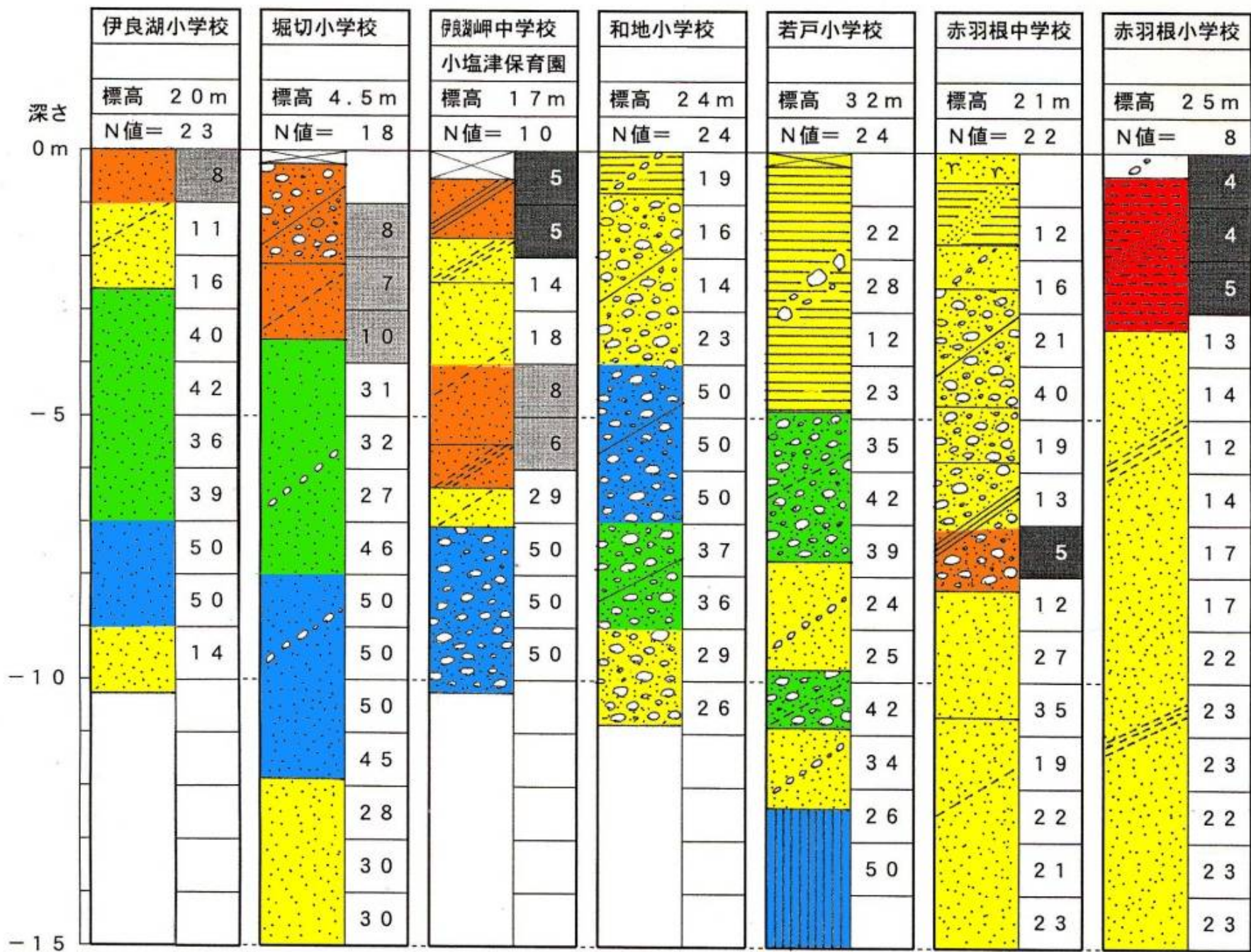
さらに低位の福江面が形成

渥美半島先端部の地形発達史

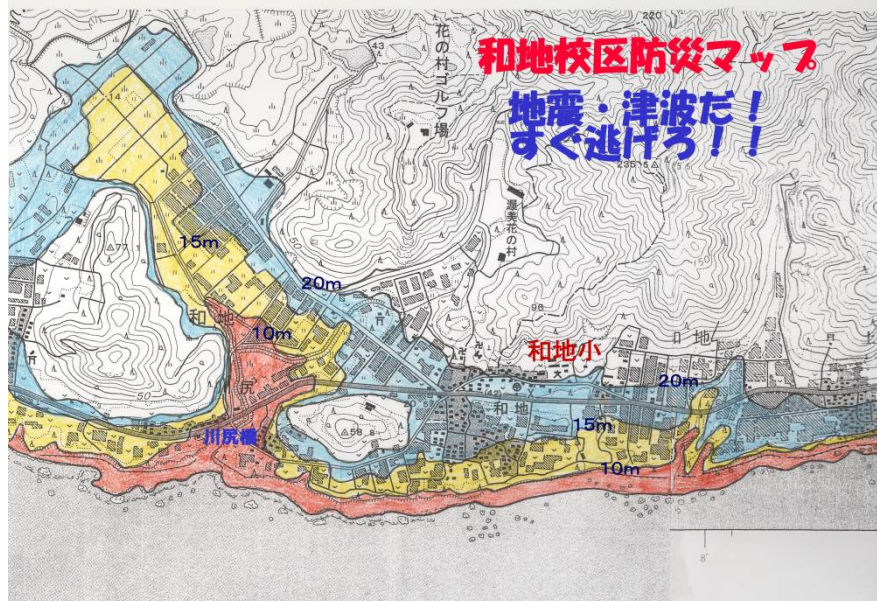


6000年前の
縄文海進期に
(高さ2~5m)
西の浜砂礫堆
が形成

渥美半島先端部の地形発達史

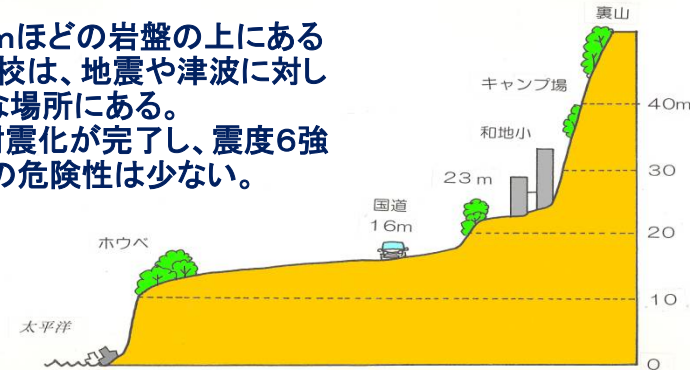


本校の地震・津波防災対策



- 標高23mほどの岩盤の上にある和地小学校は、地震や津波に対して、安全な場所にある。
- 校舎の耐震化が完了し、震度6強でも倒壊の危険性は少ない。

(航空写真は田原市提供)



自らの判断で安全な避難行動がとれる児童の育成
正しい知識と正確な情報に基づいた迅速な避難指示

地震・津波に対する研修により正しい知識
校区の自然環境の把握(標高と地形・地質)
校舎の耐震化(震度6強)と転倒防止策
マニュアルに基づいた避難訓練を繰り返す



決められた避難場所に集合・確認
正確な津波情報などを迅速に収集
より安全な避難経路の選択し指示



保護者の引き取り(震度5強以上、情報発信)
避難所の開設(自治会・PTAとの協力体制)
昨年度、学校・家庭・自治会と防災キャンプを実施

校区の前面には標高15mほどの海食崖がある。しかし川尻橋付近は7m以下であり、安政地震では津波が遡上し3軒が流された。



和地小学校が急傾斜地崩壊(崖崩れ)危険箇所指定されていた
傾斜度30度以上、高さ5m以上の急傾斜地で
斜面上部または下部に人家がある場所

平成23年台風12号による紀伊半島大水害



海食崖の崩落(平成21年東神戸町)
崖部の斜度 47° 以上







和地小学校の裏山

プール北～北館裏の崖部

裏山山頂の標高は97m
銀杏のある道面が34m
プールが標高25.5m
崖の高さは約8mである。

昭和46年(1971)に、裏山斜面の一部を削ってプールが作られた。崖の中程の礫層から、降雨後に湧水が発生する。しかし、プールや側溝、機械室・更衣室にはクランクが見られないので、これまでの42年間に崖崩れや地滑りは発生していないものと考えられる。



平成2年(1990)の和地小学校

昭和55年に新館 昭和58年に体育館が完成



昭和52年(1977)の和地小学校 運動場に芝生が

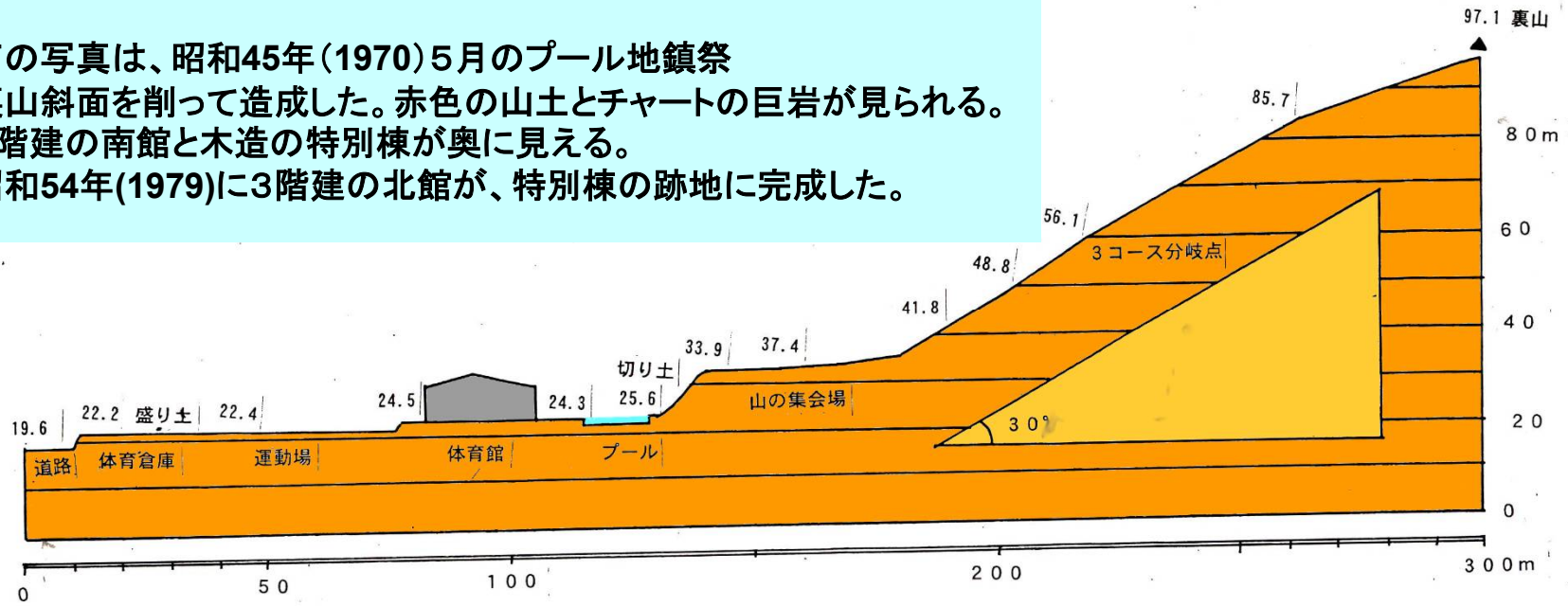


昭和31年(1956)の和地小学校

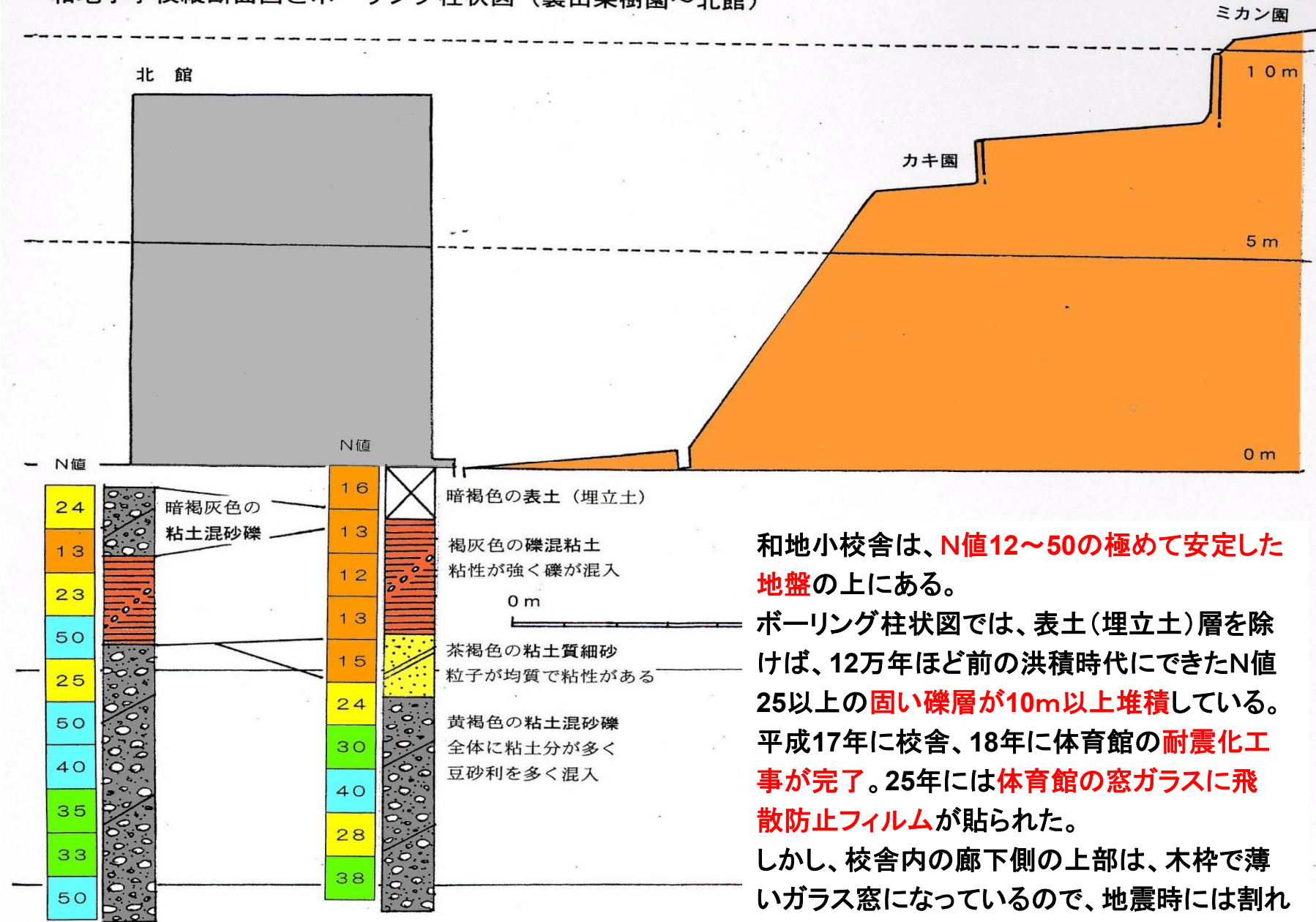
昭和30年に完成した公民館は講堂として使用された。
昭和26年に設置された暖地園芸試験場が校舎の北側にあった。

和地小学校の地形断面図

下の写真は、昭和45年(1970)5月のプール地鎮祭
裏山斜面を削って造成した。赤色の山土とチャートの巨岩が見られる。
2階建の南館と木造の特別棟が奥に見える。
昭和54年(1979)に3階建の北館が、特別棟の跡地に完成した。



和地小学校縦断面図とボーリング柱状図（裏山果樹園～北館）



和地小校舎は、**N値12～50の極めて安定した地盤**の上にある。

ボーリング柱状図では、表土(埋立土)層を除けば、12万年ほど前の洪積時代にできた**N値25以上の固い礫層が10m以上堆積**している。平成17年に校舎、18年に体育館の**耐震化工事が完了**。25年には**体育館の窓ガラスに飛散防止フィルム**が貼られた。

しかし、校舎内の廊下側の上部は、木枠で薄いガラス窓になっているので、地震時には割れたり窓枠ごと落下したりする危険性がある。



北館裏の急斜面の樹木には、一部倒木はあるが、地滑りの兆候を示す根曲がりは見られないので、比較的安定していると考えられる。



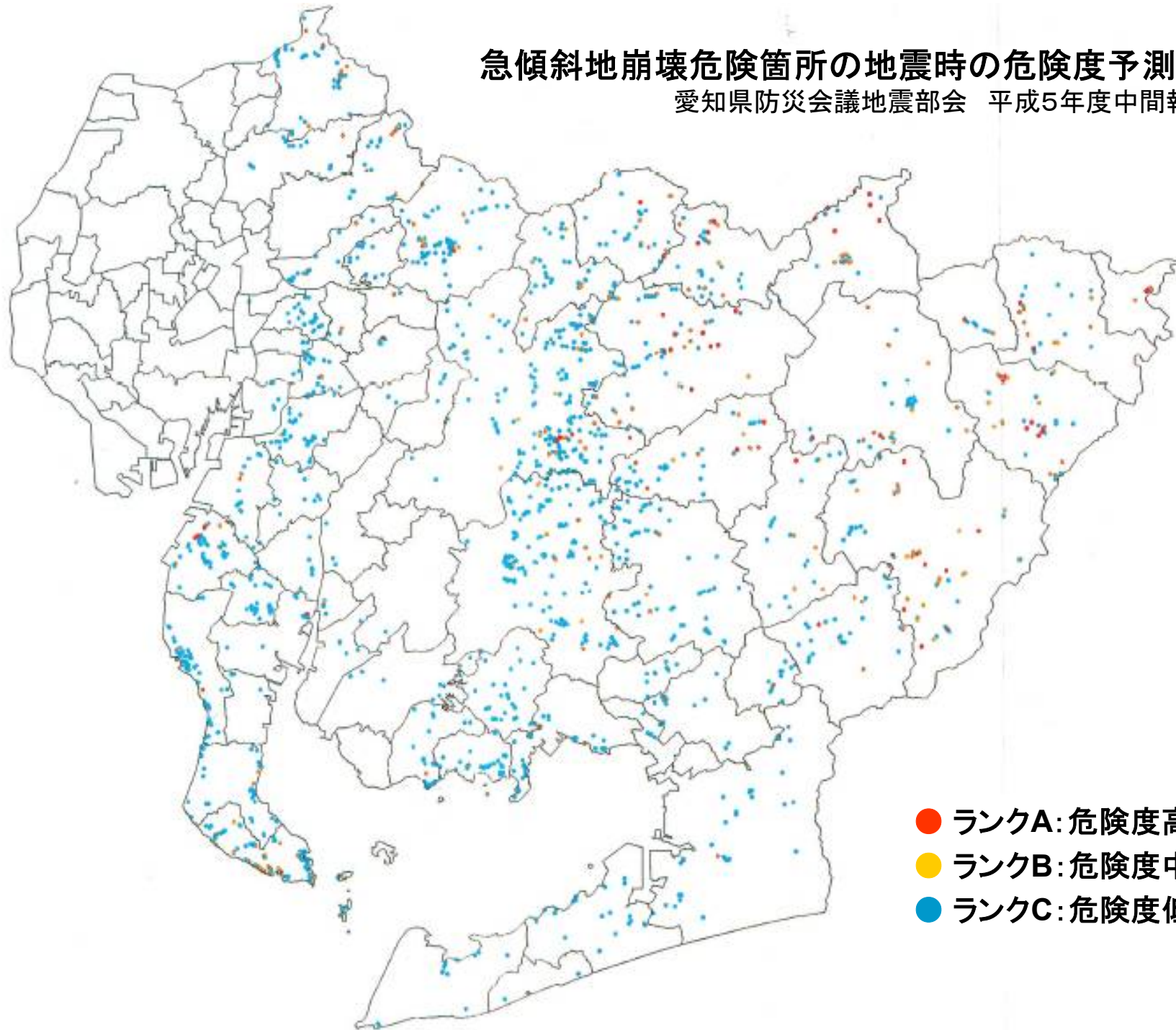
昭和27年(1952)に裏山に設置された暖地園芸試験場のコンクリート擁壁(高さ1m、厚さ10cm)には、崖崩れや地滑りによるひび割れやはらみ出しなどの変形は見られない。



北館北西部の崖には、長径20cm、幅15cm程の穴が昔から2本見られる。大雨の後には、この水みちを通して地下水が勢いよく流れ出す。この穴は、30年ほど前から確認されている。

急傾斜地崩壊危険箇所の地震時の危険度予測結果

愛知県防災会議地震部会 平成5年度中間報告書



ササユリ

和地小学校
学校だより
平成24年度
10月号

年	裏山の学校林緑化活動等に関わる受賞歴
大正	9 北山5町歩を校地に購入し、体育場、教育公園に
昭和	27 裏山に産地園芸試験場が作られる ～昭和42年
	60 学校環境緑化コンクール愛知県賞
	61 学校林等活動コンクール愛知県特選、全国入選
	63 学校林活動コンクール県知事賞、農林水産大臣賞
平成	元 全国植樹大会会長賞
	2 学校環境緑化コンクール県推進委員会会長賞
	4 「わが家の木」の競進が始まる
	8 学校環境緑化コンクール県推進委員会会長賞
	9 緑化推進運動内閣総理大臣賞
	学校環境緑化コンクール県推進委員会会長賞
	10 学校環境緑化コンクール県教育委員会賞 ～平成14年
	15 学校環境緑化コンクール県緑化推進委員会会長賞(特選)
	24 学校関係緑化コンクール学校林等活動中日新聞社賞

平成六年度に学習林研究委員会を開催。「豊かな自然環境の中で草木を育て草木と遊び、人とのふれあいを大切にし、ふるさとを愛することのできる心身ともに健全な子を育てる」をテーマに、自然環境を生かした学習活動、地域素材を教材とした学習活動を公開しました。その時裏山にスモモ・カキ・ミカン等の実のなる木が植えられ「わが家の木」として現在まで大切に引き継がれています。



キーワードは「裏山」
校長(当時)鈴木徹
平成八年度は、緑化コンクール学校環境緑化の部で県入賞を果たし、今年度は**和地まどりの少年団が内閣総理大臣賞**を受賞することとなりました。これは平成元年度の緑化コンクール農林水産大臣賞受賞以来の快挙です。学校・家庭・地域が一体となって、裏山を中心とした緑化活動を進めてきた結果と思えます。
裏山は素晴らしい体験学習の場であり、体力を培う場であり、助け合いや思いやりの心を育てる



裏山(学習林)の主な活動

- 5月 ササユリの仮植
親子草刈りとわが家の木の世話
ササユリの本数調べ
ササユリの絵手紙コンクール



- 6月 ウメの収穫と梅干し作り
ササユリの施肥
- 10月 親子草刈りとわが家の木の世話
- 11月 ササユリの種集め
木の葉の芸術
- 12月 ササユリの種まき
- 1月 ササユリの定植
- 2月 チャレンジ山登り



木の葉の芸術
春先になると、ウグイスがさえずり始め、梅花の季節にはメジロの群れが飛び交う緑豊かな裏山は、和地小のシンボルでもあります。校区や保護者が一体となって、山火事で焼けた山肌一本一本苗木を植えて、階段や山道を整備してきました。緑を取り戻した裏山に、遊具や卒業記念作品を置き、果樹や記念樹を植えました。九十六mの山頂まで一直線に延びる急な階段を息を切らせながら登り切り、展望台から紺碧の太平洋と銀色に輝く温室群を眺める時、この和地校区の自然とよきさしみじみと感じさせられます。

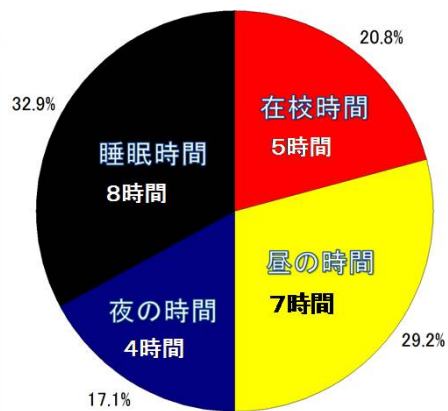
特待室 裏山は緑の教室
字北山ノ山頂二千余坪ノ児童体育場ヲ設ケ児童体力ノ増進ヲ計リ、アワセテ北山ノ花卉樹木山水ヲ利用シ一大公園ヲ設ケントス。
居ハ八ツ移スト八千古ノ至言ナリ。故ニ小學校ニ於テ児童ノ身体ヲ鍛錬シ學芸ヲ教ユルト共ニ其品性ヲ陶冶シテ雄大ナル氣風ヲ養ヒ高尚雅ナリル品格ヲ備ヘシメガ為ニ八學校トシテ必ス其用意ナカルベカラザルヲ大ニ感シタリ。
學校ノ風致ニ於テ自然ニ児童ヲ接触セシメ無意ノ間ニ児童ヲ感化セシメントスルニアラシメ森アリ川アリ庭園アリテ日常教室内ニテノ学習ト相待ツテ此大開雅ナル自然ノ環境ニ在リテ温雅ナル自然的感化ヲ受ケシメントスルニアリ。
これは大正九年(一九二〇)に、北山(裏山)が、和地小学校に購入された時の請願書の一部です。文章からは、子どもたちのために、裏山の自然の中で体を鍛え、豊かな情操を高めようとして編入を願っていた当時の河合重吉校長と、それに応じた和地地区の教育者の熱い思いが伝わってきます。本校は九年ぶりに緑化コンクール学校林等活動の部で愛知県から表彰されることになりました。今回は校区やPT

Aが主体となった裏山の整備、教師と子どもが取り組んだ学習林活動による輝かしい受賞の歴史を、「青友」の中からたどってみます。
昭和五十二年には、「黒土を緑に染めた美しい山にかえし、教育の森と校区民憩いの森に」を合い言葉に、山火事で焼失した裏山に松や教育樹木等を植林し、あわせて教育公園づくりが行われました。

学校林等活動の受賞に寄せて
校長(当時) 大谷 淳一
平成元年
五月二十一日、天皇皇后陛下ご臨席のもと、徳島県で開催された全国植樹大会、農林水産大臣賞、日本放送協会会長賞をいただきました。
明治四十三年に現在地に校舎が移転された時から、裏山の植林がされました。さらに、大正九年に裏山が校地に編入されて以来、自然の中でたくましい子を育てようという伝統が生まれていくのです。
昭和四十五年、産地園芸試験場が閉鎖になり、裏山の整備が進められました。校区民編出の植林や登山道づくり、育友会の草刈り、枝打ち、施設作り、運動場の芝植え等、設けられた努力で学校と裏山が一つ、素晴らしい環境と支えられてきました。昭和六十年には学校環境緑化コンクール、昭和六十一年には学校林等活動の部に応募し、好成績を収めた。校区の人々の長年の努力に、大輪の花が咲いたという思いもあって、たくましい和地の子を育てていきたいと思えます。

子どもたちの生活時間

1年間の総時間を1日に換算すると



震度6弱の揺れ最中

